

甲南Today

甲友のリレーションで、

未来を紡ぐ

No. 30
2008 MAY

甲南Today No.30

2008年5月1日発行 [発行] 甲南学園広報部 〒658-8501 神戸市東灘区岡本8丁目9-1 TEL.078-431-4341 (代)



川で溺れる女性を救出。
チームワークが救ったひとつの命。

「現代G.P.」にも採択
一人ひとりの生き方を支援する
甲南のキャリア教育の取組み



笠間 健さん

理工学部4年生
漕艇部

大学4年間を漕艇部一筋に過ごし、現在はキャプテンを務める。「関西NO.1」と「全日本大学選手権」でのメダル獲得をめざし、大学生活において有終の美を飾ることが目下の一番の目標。



▲この人命救助は、大阪市東淀川消防署長から表彰された。



◀ 本学も笠間さんを顕彰。

「真の教育とは、人格の修養と健康の増進を重んじ、個性を尊重して各人の天賦の才能を引き出すことである」と提唱した、甲南学園創立者平生三郎。そんな平生の想いを込め、今、甲南学園で光り輝いている学生生徒をご紹介します。



寒さが本格的になってきた昨年11月末、漕艇部の笠間健さんは、神崎川で練習を終え、艇庫で帰り支度をしていました。その時突然、「川に溺れた女性がいる」と、子犬連れの女性が助けを求めて駆け込んできた。「漕艇部で水難救助訓練も受けていたので、冬場に3分以上水中にいると危険だと思います。だから、先輩とともに、救命具と毛布を抱え、とにかく急いで現場に駆けつけたんです」と、笠間さんはその時を振り返る。先輩が水の下から押し上げ、笠間さんが上半身を持ち上げる。「我ながら、すごく冷静でした」。幸いにも、ふたりの息の合った救出により、今にも力尽きそうになっていた女性を無事助け出すことができた。

それもそのはず、ともに救助した先輩とは、「ダブルスカル*」で2007年度関西ボート選手権で準優勝、全日本大学選手権でも4位と輝かしい成績を残している。「ボート競技は、一見単純な動きのように見えますが、クルーの息がピッタリ合わないと前に進めない競技。日頃培ったチームワークが発揮できて良かったです」。

現在キャプテンとしてクラブ活動に励む一方で、理工学部の笠間さんは「知的システム設計」の研究に情熱を注いでいる。ドライビングシミュレータなど、人為的ミスや事故を防止するシステムづくりに役立つ研究だ。日本を代表するものづくり企業、日立製作所への就職も決まっている。「技術力を活かして、人の役に立ち、人を支える仕事がしたいんです」。やっぱり彼は、「世の人々を助ける人」なのだ。 * ボート競技の2人乗り種目。



インターネットで甲南へ

<http://www.konan-u.ac.jp>



高阪 薫
学長

第15代甲南大学長に 高阪 薫名誉教授が就任。

新学長
ご挨拶

2008年度より、
高阪 薫名誉教授(前文学部日本語日本文学科教授)が
第15代甲南大学長に就任しました。
ここでは、甲友の皆さま方へ、就任にあたり、
今後甲南がめざしていくべきビジョンや
施策についてお話しします。

「問題意識」を生み出すこと
学長就任以来、内外に多事多難、東奔西走「多忙」の日々です。「多忙」の「忙」とは「心を亡くす」ということ、ではなくて「心を尽し」事に当りたいと思います。「正しく強く朗らかに」の創立者平生精神で明るく頑張ります。

幼い頃、人は自分の周辺に生じる問題には大いに関心を示し、こだわります。少年期から、他者や社会に生じる問題を、それこそ問題だと感じるようになります。大学時代は自己と他者の問題を冷静に意識できる時代です。しかし問題意識を持ったからといって、済むわけでもない。それこそ解決の方向を見定め、能力を傾注して、解決の糸口を見出さなければなりません。

それを大学教育の中で、しっかり身に付けることです。そのためには科学的的方法論・技術論を身につければいいのですが、机上の理論だけではだめです。表立ってやることです。キャンパスを舞台に、自らの疑問を正確に把握して、まず自分自身に問い、友に投げかけ、教授に挑んで、読み書き調べ、発表し討論して、さまざまな人と交流して、問題意識を共有して、謎解きを掲げることです。そして基礎ゼミや講義や先輩やクラブから教わることです。いろいろな価値観を持つ仲間・教授との対談こそ大切です。こういう自己

「問題意識」を生み出すこと
学長就任以来、内外に多事多難、東奔西走「多忙」の日々です。「多忙」の「忙」とは「心を亡くす」ということ、ではなくて「心を尽し」事に当りたいと思います。「正しく強く朗らかに」の創立者平生精神で明るく頑張ります。

昨今、社会では、大学生の学力低下が話題となつています。読み書きの基礎知識、訓練が必要です。甲南でも教養教育に力を入れています。また問題意識をもてない学生が増えています。大学とは解答を求めるところではない、問題を作り出すところだ。常にそういう問題意識を持つことだ、と言われてもピンとこない人もいます。

問題意識とは、人生万般にかかわる諸事態・諸現象に対し、何故だろう、どうしてだろう、と考えその核心を追究しようとする意識のことです。

甲南の教育研究はそこを目指しています。知育の背景に健全なる精神と身体をおくわが平生の教育理念はここでもバックボーンとなっております。

せん。受験勉強の明快な解答が好きならには、大学は不可解な教育機関です。大学は基礎学問も先端科学もいずれも問題意識を持つことから始まり、解決能力をいかに涵養するかを、英知を集めて養成します。しかし、それは新たな問題意識を生み出すための教育なのです。

二夜漬け、単位だけ、スキルだけ、優・良の数の心配などの成績要領主義の学習は、将来の人生に禍根を残します。学問に対する謙虚な気持ちと畏敬の念をもって、ひたすら問題意識を生み出すことに精進すべきです。

甲南の教育研究はそこを目指しています。知育の背景に健全なる精神と身体をおくわが平生の教育理念はここでもバックボーンとなっております。

せん。受験勉強の明快な解答が好きならには、大学は不可解な教育機関です。大学は基礎学問も先端科学もいずれも問題意識を持つことから始まり、解決能力をいかに涵養するかを、英知を集めて養成します。しかし、それは新たな問題意識を生み出すための教育なのです。

二夜漬け、単位だけ、スキルだけ、優・良の数の心配などの成績要領主義の学習は、将来の人生に禍根を残します。学問に対する謙虚な気持ちと畏敬の念をもって、ひたすら問題意識を生み出すことに精進すべきです。

甲南の教育研究はそこを目指しています。知育の背景に健全なる精神と身体をおくわが平生の教育理念はここでもバックボーンとなっております。

せん。受験勉強の明快な解答が好きならには、大学は不可解な教育機関です。大学は基礎学問も先端科学もいずれも問題意識を持つことから始まり、解決能力をいかに涵養するかを、英知を集めて養成します。しかし、それは新たな問題意識を生み出すための教育なのです。

中西香爾先生・岡田節人先生 文化勲章受章記念講演会

卒業生の中西香爾先生・岡田節人先生が、2007年11月3日、文化勲章を受章されたことを記念し、講演会を開催いたします。

開催日時 2008年5月24日(土) 13時～

講演場所 甲南大学1号館142講義室
卒業生、学生・生徒、一般社会人、学園関係者を対象とする。

記念講演 中西香爾先生「天然物化学の面白さ」
旧制甲南高等学校 昭和19年卒
岡田節人先生「脱科学よもやま話」
旧制甲南高等学校 昭和22年卒



(写真提供: 朝日新聞社)



表紙の絵 ● 西井 義晃 画
「12号館 法科大学院棟」
西井 義晃さん プロフィール
1961年甲南大学経済学部卒業
元自由美術会員
次のURLで作品集をご覧ください
<http://webgarou.net>

- 2 WHAT'S NEW KONAN
新学長ご挨拶
中西香爾氏・岡田節人氏 文化勲章受章記念講演会
- 3 2008年4月、知能情報学部スタート
日伯交流100周年記念事業「ブラジル国花イッペー」植樹祭
ポートアイランド新キャンパス新築工事の地鎮祭
2007年度卒業証書・学位記授与式
2008年度入学宣誓式
- 5 新任教員紹介／退任教員紹介
- 8 特集1 「現代GP」にも採択
一人ひとりの生き方を支援する
甲南のキャリア教育の取組み
- 11 特集2 オール甲南の集い 2008
- 13 高・中TOPICS 中学校／自学自修 高校／E-Study
「生きる力」を育てるプログラム
- 14 フランス甲南学園トゥレーヌ日より
フランスを実感する
- 15 なるほど! 甲南アカデミア
アジアのダイナミズムに
日本は勝ち残れるか!?
経営学部 安積 敏政教授
- 17 こちら甲南特搜部 皆さまから寄せられた疑問を徹底調査!
甲南の学園歌とロゴの由来は何?
- 19 創部から未来へ 甲南クラブステップ〈アメリカンフットボール部〉
関西有数の伝統は、世代を超えた力に支えられて
- 21 IT's KONAN STYLE
悩み続けた学生時代の私を
おおらかに包んでくれた甲南大学
SF作家 機本伸司氏
- 22 甲南学園の歴史と文化をつくった人々
- 23 甲南フォーラム



2008年4月、
知能情報学部スタート。

2008年4月開設の知能情報学部がいよいよ始まりました。4月4日(金)には13号館で新入生歓迎式典を開催。136名の新入生が入学し、これからの大学生活へ期待に胸を膨らませました。

知能情報学部は、理工学部情報システム工学科を母体に、これまでの情報・システム工学の学問的蓄積に加え、単独の学部としては極めて珍しい「インテリジェンス」をテーマに掲げた学部。情報通信・人間知・機械知の3つのコースを設定し、徹底したインタラクティブ(双方向)教育が特徴です。ITをベースに人間力と感性・知性で未来を切り開く人材を育てていきます。



挨拶する中山弘隆学部長

脳の情報処理「学習」や「記憶」を学んでいきたいです。人間にしかない身体メカニズムを、人間が生み出して進化させたコンピュータにどう組み込んでいかに興味があり、この学部に入學。自分の好きな研究で、社会に役立つものをつくってきたいですね。

知能情報学部 1年 青木祐太さん



「知能情報」を学問領域にした単独学部は、甲南大学ならではの。施設が充実している点も、入学を決めた理由です。生身の人間とコンピュータ、有機的なものと無機的なものをどう融合させていかに関心があります。今後応用分野が広い、人間の感覚に迫る感性情報学を深く学びたいです。

知能情報学部 1年 荊木亜里沙さん



知能情報学部
開設



日伯交流100周年記念事業
「ブラジル国花イッペー」植樹祭。

4月27日(日)、甲南学園創立者平生三郎のブラジル移民隆盛化と日伯間貿易発展への貢献をたたえるとともに、両国友好の証として、ブラジル国花イッペーの植樹を甲南学園平生胸像周辺にて行いました。この記念事業には、甲南学園関係者はもとより、在日ブラジル総領事や文化人をはじめ、ブラジルに縁の深い方々も数多く参加。日伯間の教育分野における交流の促進、相互理解の増進、友好関係の強化を図る機会にもなりました。

また、記念植樹の前には、「今必要な世界観をもつ経営者平生三郎―日伯交流の礎へとなつた埋もれた偉業―」と題した記念講演を、甲南高等学校昭和38年卒業生であり栗田工業株式会社監査役である栗田政彦氏が行いました。



植樹祭

2007年度
卒業証書・学位記授与式。



3月25日(火)、講堂兼体育館において2007年度卒業証書・学位記授与式(卒業式)が行われ、大卒卒業生1934名、大学院修了者163名に卒業証書・学位記が授与されました。また、自治会活動、スポーツ、文化活動などの正課以外の学生生活において顕著な活動を収め、本学の名誉を高めた学生に学長表彰が授与されました。

卒業式
開催



学長表彰

式終了後は、ゼミや学部で卒業レセプションも行われ、キャンパスのあちこちから友人たちと記念写真を楽しむ光景も多く見られました。

「自治会活動」

柴田 悠貴 (経済学部) 「スポーツ活動」
2006年ウィーンで開催された「オーパンバル」に日本代表として参加。2007年九州インターナショナルダンス選手権大会で優勝。名古屋インターナショナルダンス選手権大会で準優勝し、顕著な成績を残した。

2008年度入学宣誓式。

入学式
開催



4月1日(火)、講堂兼体育館において、2008年度入学宣誓式が執り行われ、学部生1986名が入学しました。

新入生を前に、高阪学長は「すべての人はみな天才である。どんな人でも天から授かった独自の才能を持って生まれている。学生は有している独自の才能、能力に自信を持ちなさい。教師はそれをうまく引き出すことが肝要である。新入生のみなさんが持っている豊かでユニークな個性、才能の可能性をうまく引き出すことを第一にして、みなさんに接したい。私たち甲南大学は学生第一主義

ポートアイランド新キャンパス
新築工事の地鎮祭。

先端科学の拠点をめざし、2009年4月開設予定のフロンティアサイエンス学部・研究科。その校舎となる「ポートアイランドキャンパス」の地鎮祭が3月6日(木)に執り行われ、吉沢理事長、杉村学長をはじめ、学園関係者が出席しました。

新キャンパスは、約一万㎡の敷地に鉄筋コンクリート7階建て延べ約二万三百㎡の規模で建設。学生一人ひとりの研究場所となる「マイラボ」や実験室を2階から6階に配するほか、キャンパス入口に地球儀の上部を模した図書室が設けられます。

フロンティアサイエンス学部・研究科では、次世代科学のカギを握ると言われるバイオテクノロジーとナノテクノロジーの融合系領域(ナノバイオ)の研究を展開。新薬の開発、食品やエレクトロニクスへの応用など、ナノバイオの世界的な研究拠点をめざしていきます。



鎮入れをする吉沢理事長

新キャンパス
建設開始



ポートアイランドキャンパス完成イメージ図

であることを今一度マニフェストしたい」と式辞を述べ、続いて吉沢理事長は「4年という時間は長いようで短い。短いようで長い。一人ひとりが、個性的に与えられている時間である。それを投資して自分がどれだけの時間という形で成長するか、そういう意味で与えられた時間。強く、正しく、明朗闊達に取り組み、学生生活を充実したものにしたい。」「と激励の祝辞を贈りました。その後、学生代表による宣誓、学園歌を斉唱しました。

引き続き、14時より甲友会館において、大学院入学宣誓式が執り行われ、大学院(博士)8名、大学院(修士)68名、法科大学院68名、会計大学院38名、合計182名が入学しました。



〈平成20年度〉

新任教員紹介

新しい知を育む
23人の新任教員が着任しました。



北川 恵 准教授
[専門分野] 臨床心理学、人格発達理論



塚本 章子 准教授
[専門分野] 日本近・現代文学、
樋口一葉を中心とする明治文学・思潮の研究



中町 信孝 准教授
[専門分野] イスラーム中世史、
アラブ大衆文化



鳴海 邦匡 准教授
[専門分野] 人文地理学



中島 清貴 准教授
[専門分野] 応用計量経済学、金融論



池田 佳隆 教授
[専門分野] 国際政治学



笹倉 香奈 講師
[専門分野] 刑事訴訟法



阪本 邦夫 准教授
[専門分野] 3次元画像工学



田村 祐一 准教授
[専門分野] バーチャルリアリティ



灘本 明代 准教授
[専門分野] Webコンピューティング、
データベース



梅谷 智弘 講師
[専門分野] 知覚情報処理、
知能ロボティクス



永田 亮 講師
[専門分野] 自然言語処理



櫻田 嘉章 教授
[専門分野] 国際司法



早瀬 勝明 准教授
[専門分野] 憲法



齊野 純子 教授
[専門分野] 財務会計、国際会計



KIRK Stanley Arthur 専任教員
[専門分野] 英語教授法



入江 伸光 特定任期教員
[専門分野] TESOL



須藤 美喜子 特定任期教員
[専門分野] TESOL



BODNER David Alan 特定任期教員
[専門分野] TESOL



BAILEY John Murray 特定任期教員
[専門分野] TESOL



覚野 吾郎 教諭
[担当教科] 国語



田村 信平 教諭
[担当教科] 国語



LANGFORD Craig 契約教員
[担当教科] 英語

退任教員紹介

〈平成19年度〉

長きにわたり、
学生たちの知を育んできた
13人の退任教員を紹介いたします。

長い間

ありがとうございました。



北原 恵 教授 文学部

7年間、お世話になりました。京都に住んでいる私は、阪急岡本駅を降りると、強い陽射しに思わず目を細め、頬を打つカラッとした風気持ちを引き締めながら、毎日坂道を通いました。山と海と光と風。自然と文化に恵まれた甲南大学の住人は明るく人生を楽しむ術を知っておられて、私には眩しいばかりの存在でした。甲南大在校生・卒業生の皆さん、これからもひとと違っていて、自分の意見や好きなことを大切にしてください。



堀 直 教授 文学部

私は今年限りで、定年より少し早いのですが、甲南大学を退職いたします。主に私的な理由によるもので、甲南に愛着のあることは、ずっと同じです。28年前に、当時の指導教官から「周りの景色と教員の人気（ひとけ）が良いから」と薦められて、甲南に赴任しました。教員だけでなく、職員そして学生さんの人気の良さにも感謝の限りです。お世話になりました。



木村 晴子 教授 文学部

長い間、大変お世話になり
ありがとうございました。



AVILA TAPIES, Rosalia 准教授 文学部

七年間、大変お世話になり本当にありがとうございました。地理学関連の科目と「ヨーロッパ地域研究」のゼミを担当し、いろいろな面白い学生と楽しく授業ができました。特に国内外の巡検の時は、大学には大きな想像力とユーモアセンスのある立派な学生がいることに気がつきました。甲南大学の先生方と職員の皆様にも温かく囲まれ、日本史や日本の伝統文化・社会の仕組みなど多くのことを教わりました。感謝しております。Muchas Gracias.

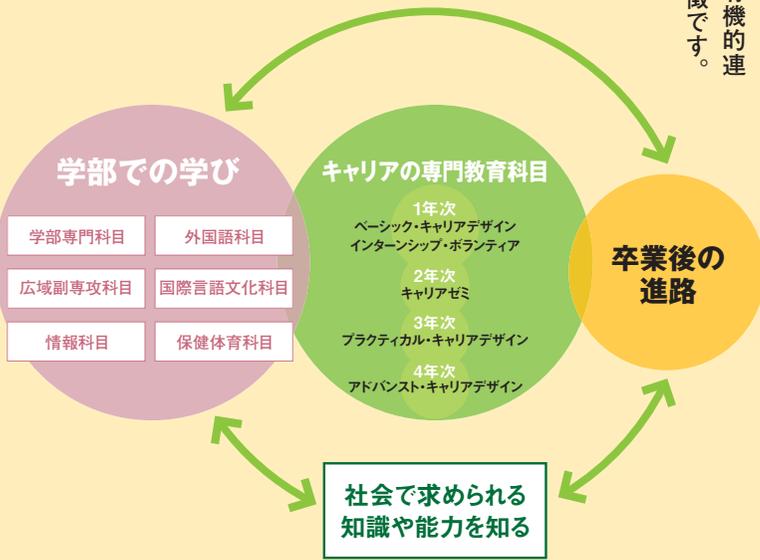


一人ひとりの生き方を支援する 甲南のキャリア教育の取組み

甲南大学では、世界を舞台にみずから考え行動できる、人間としての総合力を備えた人材の育成を教育の目標としています。また、キャリア教育にも早くから取組み、キャリアアセンダーでは、「進路発見ガイダンス」や「適性テスト」などキャリアに関するプログラムを数多く実施しています。

このような取組みが評価され、文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(現代GP)実践的総合キャリア教育の推進において本学のキャリア教育の取組みが選定されました。

この取組みは、学部教育と連携した形でキャリア教育を行うことで、高度な専門知識だけでなく、広範にわたる基礎的教養と健全な社会常識を身につけた人材の育成をめざすものです。また、高大、産官学や地域社会との有機的連携を図ることにより、教育効果を高めることもこの取組みの大きな特徴です。



平成20年度大学役職者一覧

役職名(所属)	氏名
学長	高阪 薫
副学長 (文学部)	平松 園
副学長 (理工学部)	重松 利彦
文学部長 (文学部)	大津 真作
理工学部長 (理工学部)	安藤 弘明
経済学部長 (経済学部)	福田 義久
法学部長 (法学部)	中井 伊都子
経営学部長 (経営学部)	長坂 悦敬
知能情報学部長 (知能情報学部)	中山 弘隆
法科大学院長 (法科大学院)	渡辺 顕修
会計大学院長 (会計大学院)	河崎 照行
国際言語文化センター所長 (国際言語文化センター)	胡 金定
スポーツ・健康科学教育研究センター所長 (スポーツ・健康科学教育研究センター)	桂 豊
EBA高等教育研究所長 (EBA高等教育研究所)	渡邊 和俊
人文科学研究科長 (文学部)	横山 博
自然科学研究科長 (理工学部)	宮澤 敏文
社会科学部研究科長 (経営学部)	長坂 悦敬
大学企画室長 (文学部)	平松 園
教務部長 (経営学部)	馬場 大治
学生部長 (経済学部)	岡田 元浩
キャリアセンター所長 (法科大学院)	石井 昇
図書館長 (文学部)	谷口 文章
学長補佐 (経営学部)	鶴身 潔
学長補佐 (文学部)	井野瀬 久美恵
広域副専攻センター所長 (知能情報学部)	森元 勤治
情報教育研究センター所長 (知能情報学部)	若谷 彰良
国際交流センター所長 (国際言語文化センター)	津田 信男
フロンティア研究推進機構長 (経営学部)	Shrestha Manoj Lal
先端生命工学研究所長 (理工学部)	杉本 直己
カウンセリングセンター所長 (経済学部)	奥田 敬
人間科学研究科長 (文学部)	森 茂起
総合研究所長 (法学部)	安西 敏三
サイバーライブラリ所長 (文学部)	谷口 文章
就職教育センター所長 (文学部)	都築 直也
ビジネス・イノベーション研究所長 (経営学部)	中田 善啓
企業法務研究所長 (法科大学院)	根岸 哲
学生相談室長 (経済学部)	奥田 敬
心理臨床カウンセリングルーム長 (文学部)	横山 博
CUBE高等教育研究所長 (経済学部)	佐藤 治正
情報教育研究センター副所長 (文学部)	秋元 孝文
国際交流センター副所長 (経営学部)	杉田 俊明



大久保 邦彦 教授 法科大学院

甲南での5年間は、ロースクールの立ち上げに尽きる。過去2回の新司法試験の結果については、種々の評価がありえようが、旧制度の下では産近甲龍の中で最も実績のなかった甲南が、学園の全面的な支援の下、新司では最もよい成績を上げ、合格率では開関同士の一角に食い込むまでに至ったことは、自負できる。私はこの3月で甲南を去るが、わが甲南ローは永久に不滅であることを期待したい。



高森 八四郎 教授 法科大学院

法科大学院発足にあたり、請われて関西大学法学部から甲南大学法科大学院に移籍致しました。発足当初こそ、色々のどまどい等もありましたが、その後、方向性が定まると共に、法科大学院生との交流にも親しみが増し、良好な環境と有能な事務スタッフにも恵まれ、楽しく4年間を過ごすことができました。院生の多数の合格と、甲南学園の益々のご発展を心から祈念しております。



加藤 恭彦 教授 会計大学院

甲南大学に勤務して37年間、毎年卒業生を送り出して参りましたが、この度は、私が37年目にしてようやく卒業することになりました。この間多数の学部生・大学院生と講義やゼミナール、ある時にはコンパや合宿ゼミ等を通して親しく交わることができ、諸先生方とは会議や学会等に際しているりとご指導、ご鞭撻をいただき、また職員の方々には事務諸般にわたり支援していただきまして、今日まで無事に過ごしてこれたのは、皆さん方との出会いによって支えられ、励まされて参りました賜物であると、心から感謝いたします。



福島 孝夫 教授 経営学部

誰に阿ることもすり寄ることもなく、マイペースで過ごせた25年間。幸せでした。関係者に深く感謝です。8回も送別会を開いて戴き、その思いを強くしています。『正法眼蔵』全巻読破と古文書解読のために大学とカルチャーセンターでの勉強を、そしてカンボジアで孤児院を営んでいるゼミ卒業生の応援と地域社会へのささやかな貢献を、今後の生活のベースにしたいと思っています。甲南大学の一層のご発展を祈ります。



QUINN, Cynthia 講師 国際言語文化センター

For me, the most memorable aspects of my professional life at Konan are the students I met and the cultural experiences I had. Always considerate and cooperative in class, Konan students made teaching a pleasure and at the same time contributed to my own cultural understanding. As one of very few foreign faculty at Konan, I've certainly encountered my share of cultural conundrums, but each experience has ultimately benefited my understanding of organizational life in Japan.



得津 一郎 教授 EBA高等教育研究所

EBA総合コース発足とともに、甲南学園にお世話になり6年が経ちました。この間「私利私欲」なく、EBA総合コースを軌道に乗せ、発展させることだけを考え、微力ながら精一杯のことができたこと満足しています。春からは、古巣の神戸大学で再び研究と教育を続けることとなりました。甲南では、実に多くのことを学ぶことができました。退任にあたり、甲南学園に感謝するとともに、学園の益々の発展を心よりお祈り申し上げます。



平尾 周平 教授 理工学部

大学生から始めて46年間、まさに甲南漬の人生であったと思います。この間、わが人生で最も印象に残るのは、やはり、甲南キャラが身についたことでしょうか。このキャラ、あまり尊敬はされませんが、人に好かれることは間違いのないようです。昨今、明るくさわやかな学生諸君の数が減ってきていますが、寂しい限り。いつまでも甲南大学の甲南大学らしい伝統を維持し続けてほしいもの。最後に一言。甲南大学よ、永久に栄光あれ!



藤田 宏郎 教授 法学部

昭和50年に甲南大学に来ましたので、33年間のことになります。この大学での33年を振り返ってみますと、山あり、谷ありといったことではなく、割りあい平坦な道を快適に歩かせていただいたように思います。このように快適に過ごさせていただいたのも、多くの教員、職員の方々に親切にいただいた御かげです。長い間お世話になり、有り難うございました。



徳永 光 准教授 法学部

教員となって初めて勤める大学が、職場・研究環境に恵まれた甲南大学だったことに、とても感謝しております。ゼミでの課外活動や海外調査など楽しいこともあれば、列車脱線事故の辛い出来事もあり、さまざまな経験をさせて頂きました。学生のみならず、どうぞ健康で、有意義な大学生生活を謳歌して下さい。職員の方々、先生方には、親しくしていただき、また大変お世話になり、有難うございました。

一人ひとりの
生き方を支援する
甲南のキャリア教育の
取組み



現代GP シンポジウム

早春の爽やかな晴天に恵まれた3月8日(土)、甲南大学甲友会館にて、現代GPシンポジウム「キャリア教育フロントランナーからの提言」が開催されました。はじめに、キャリアセンターによるキャリア教育の実施報告からスタート。次に、ミズノ株式会社の代表取締役会長であり、甲南大学同窓会会長である水野正人氏の基調講演が行われました。最後にパネルディスカッションが開催され、「社会がどのような人材を必要としているのか」「大学はそうした人材をどのように育てるか」といったテーマに真正面から議論が繰り広げられました。

現代GPとは
「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」は、文部科学省が、各種審議会からの提言等、社会的要請の強い政策課題に対応したテーマを設定を行い、各大学等から応募された取組の中から、各大学が工夫を凝らし、他の大学等でも参考となる「特に優れた教育プロジェクト(取組)」を選定し、財政支援を行うことで、高等教育の活性化が促進されることを目的とするものです。

キャリア教育 フロントランナーからの提言 開催

基調講演



「若者たちへ、自分の生き様を真剣に考えてほしい。」

〈テーマ〉魂を燃やそう！
水野 正人氏
ミズノ株式会社代表取締役会長



平野 欽一郎
キャリアセンター事務室長*

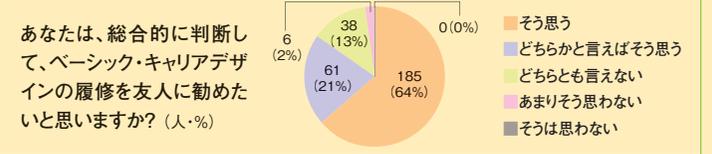
実施報告

本学キャリア教育の4つの特徴「学部教育とキャリア教育の連携」「企業や公共機関でのインターンシップなどの実施」「個々の能力に応じた教育」「入学から卒業までの長期的教育」について、具体的な内容が報告されました。

「若者たちが、人生とは何か?と、自分の生き様を真剣に考えてほしい」という願いを込めて水野正人氏が基調講演のテーマを「魂を燃やそう」に決められました。「いまの日本社会は、指示待ち社会になっている。日本人はもっと考える力を身につけて、自分の行動に責任を持たなければいけない。自分たちのすべての行動に魂を込めなければいけない」と、愛情にあふれた叱咤激励から講演はスタートしました。

その後、本学が展開するキャリア教育への高い評価もいただきました。「キャリアというのは生き様を決める大事な部分です。甲南大学はそこに目を付けて、1回生から自分自身のことを考えられるキャリア教育を展開している。それは、本当に素晴らしいこと。学生たちには、ぜひキャリア教育プログラム

ムのおかげできないのです。そして、生き様につながるってほしい」と述べられました。さらに、社会を生き抜くために必要とされるコミュニケーションスキルについても言及。「コミュニケーションの第一歩は、自分を知らずともらうこと。自分の心を開くことにすることが大切です。人それぞれの性格が異なるようにお困り柄により考え方も異なることなど、ご自身の海外での豊富な経験やユーモアを交えながらお話しいただきました。



〈テーマ〉
価値創造のできる
21世紀型教養人の育成

パネルディスカッション



「社会において期待される人間とは?」「キャリア教育にどのような役割をもたすべきか?」「生涯教育としてキャリア教育をどのように行うべきか?」「キャリア教育と甲南大学キャリアセンターの進むべき方向性は?」といった4つのテーマから討論。甲南大学のキャリア教育がどのような成果を上げ、社会からどのように評価されているかを知る機会となり、実りあるディスカッションとなりました。

パネリスト



ミズノ株式会社
代表取締役会長
水野 正人氏



神戸市東灘区長
松本 明氏



甲南大学第36期
自治会中央委員会
山本 瑛弘氏



甲南大学長*
杉村 芳美

コーディネーター



甲南大学
キャリアセンター所長*
伊藤 隆俊

*の役職は2008年3月8日当時のものです。



花と緑がもつふしぎなパワーを解説!

講演

世界一受けたくなる甲南大学の授業・田中教授の「花と緑のふしぎ」

●12:00~12:50

テレビ・ラジオでおなじみ、田中教授の「植物の巧みな生き方と生きるパワーのすごさ」のお話。日本テレビ系「世界一受けたい授業」でも登場しました。聴いていただければ、身近な花と緑が生き生きと感じられるでしょう!



甲南大学卒業生 教職員の集い

現在小学・中学・高校で教鞭を振る卒業生が集合。

●11:00~13:00

オール甲南の集い 2008

5/25日 in 岡本キャンパス

この「甲南 Today」の読者だけの特典をご用意しております。

甲南ファミリーのあなたとつくる 年に一度の大同窓会

卒業生、在校生、父母の皆さま、またそのご家族まで、甲南ファミリーが集まり、仲間や先生との再会、現役各クラブのパフォーマンスなどを楽しむ毎年恒例の「オール甲南の集い」を、5月25日(日)に開催します。「世界一受けたい授業」等テレビ・ラジオの番組にも出演している田中教授の講演や甲南大学式フィットネステストの体験など、ユニークなプログラムも用意していますので、ご家族ご友人とお誘い合わせてご参加いただき、甲友の絆を深めてください。

※内容は若干変更する可能性があります。 ※駐車場はございません。電車・バスをご利用ください。



OB 機本伸司氏原作 「神様のパズル」 試写会

本誌P21でもご紹介している機本伸司氏作のSF小説「神様のパズル」が映画化され、6月に全国東映系映画館で公開されます!「オール甲南の集い」では、映画「神様のパズル」を一足早くご覧いただけます!

●13:00開場、13:30上映

以下のとおり先着順で整理券を配付いたします。 日時:2008年5月25日(日)12:00~ 場所:甲南大学1号館左横特設スペース 配付枚数:50枚

紙ひこうきをつくろう 花のかんむりをつくろう

(教室とコンクール・お子さま向け)

ご来場のお子さまに 紙ひこうきと 花のかんむりを プレゼント!

懐かしさやロマンを感じさせる「紙ひこうき」「花のかんむり」。それぞれの作り方をプロの講師がお教えます!

●13:00~16:00(入替制)



蘇れ! 甲南スピリッツ

公開座談会

「今、求められるリーダーシップとは? ~甲南創立者 平生に学ぶ~」

●13:00~14:20

出演: 水野 正人氏(ミズノ株式会社代表取締役会長/甲南中学・高校・大学OB)、衣笠 茂元学長、高阪 薫新学長ほか

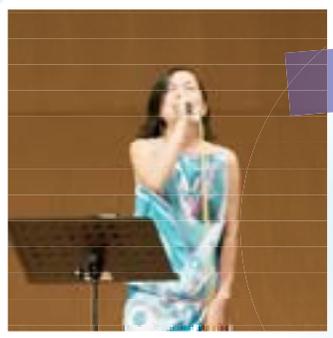
甲南創立者である平生の精神。そこには、現代に忘れられがちな大切なことがたくさん込められています。新学長、水野同窓会長、自治会OBたちが平生のこころを熱く語り合います!



模擬店・物産展

卒業生が経営する 企業・商店などの物産や軽食、ビール、綿菓子、スナック類などをお得な価格でご提供!

●12:00~16:00



OB・OG と在学生が共演

コンサート 「オール甲南 夢舞台」

●14:00~16:30

出演: ROOTS(ヴァイオリンとギターによる貴志康一作品の演奏)、Asa festoon(ラテンミュージック)、グリークラブ、女声合唱団アモロゾ、吹奏楽部、チアリーディング部、中高プラスアンサンブル

憩いの広場

茶華道料理部道心会の 学生によるお茶とお菓子でくつろいでいただけます。

●12:00~16:00

クラブ・ゼミ OB会

●14:00~16:30

今年は、それぞれの団体のお写真をプロが撮影、CD-Rで幹事さんに進呈します。また、よりおいしいものをお召し上がりいただく工夫もいたします。どうぞご期待ください!!



お祭り広場

オリジナルバッジ作製(無料)・射的・バルーンアートなどで お楽しみください!

●12:00~16:00

生涯自分の足で歩こう!

甲南大学式 フィットネステスト体験

●13:00~16:00



甲南大学が考案した、子どもさんから高齢者まで取り組める健康チェックとアドバイス。甲南Today前号でも特集し、大好評でした。身体のトラブルを未然に防いで快適な人生を送るお手伝いをします。今回のテーマは「自分の足で歩こう!」です。

甲南の歴史を 振り返る写真展

甲南の歴史・思い出を写真で振り返っていただきます!

●終日

ミニサッカー大会

毎年大人気の親子でフットサル! 飛び入り参加も大歓迎です!!

●9:30~16:00

全国甲南会

(議事・懇親会)

●14:30~16:30

全国から甲南会が集結! (同窓会主催)



EBA卒業生・在校生の集い

EBA初の同窓会! 現役も交えて開催します。

●13:00~

甲南Today 読者限定の特典チケット

このチケットを甲南大学正門受付にてお渡しください。特典引替券と交換させていただきます。

申し込み・問い合わせ先 甲南学園広報部 TEL.078-435-2628

FAX. 078-435-2546

どなたでもお越しいただけます! (卒業生・在学生・ご父母以外の方でも結構です)



フランスを 実感する。

フランス甲南学園トゥレーヌ高等部・中等部
校長 横山 理



ロッシュ城を訪れた両校生。

多様なコミュニケーションによる 同世代間の交流

本校は昨年5月、フランス語の授業のある日本の高校と日本語の授業のあるフランスの高校との間で交換留学を推進する機関として設立された「日仏高等学校ネットワーク」(通称コリブリ)に加盟し、日仏高校間の交流に積極的に参加する意思を表明しました。その活動の環として、本校はパリ郊外にあるカミニュークローデル校と12人単位での短期交換留学を始めました。昨年11月29日から12月6日までの8日間、本校生はクローデル校に留学し、日本(語)について素養のある現地校生の家庭に滞在しました。また、フランス人高校生を受け入れるために、2008年1月17日から24日までの8日間行われ、本校の寮4人部屋にフランス人2名、本校



寮の部屋でくつろぐ本校生とクローデル校生。

生2名の構成で宿泊しました。本校は、この交換留学をフランス語の習得という、狭い観点では捉えてはいません。フランス語でコミュニケーションが行われることは勿論ですが、日本語を学習しているクローデル校生にとつては、むしろ日本語で話すことが希望です。第3の言語として英語を使つたコミュニケーションも可能です。これら多様なコミュニケーションが混在するところに、この交換留学の面白さ、重要性があります。同じ世代のフランス人と日本人の間で行われるコミュニケーションそのものが、この交換留学の目的なのです。

実際、私がクローデル校生にフランス語で話しかけると、彼らの方は日本語で応えてくる、というケースがたびたびありました。クローデル校生は、寮内でも日本語を学習しようとする姿勢がはつきり見え、それがかえって本校生には、フランス語学習に対するモチベーションを与えることにもなりました。事実、クローデル校生が帰ったあと、「フランス語をもっと勉強したくなった」という生徒の声を私自身何度も耳にしています。

人間と人間のふれあいの中で フランスを実感

私たちは、クローデル校生を受け入れるために、きわめて緻密な1週間のカリキュラムを組みました。日本語8時間、フランス語による日本史4時間(これにはフランス語コミュニケーションコースの本校生も参加しました)、本校生による



書道の授業で作品を見せる生徒たち。

私たちが、クローデル校生を受け入れるために、きわめて緻密な1週間のカリキュラムを組みました。日本語8時間、フランス語による日本史4時間(これにはフランス語コミュニケーションコースの本校生も参加しました)、本校生による

「日本文化紹介」2時間、ほかに体育、英語、フランス語クローデル校生はアシスタント・ティーチャーをつとめました。芸術(書道、美術、音楽)などの授業をプログラムし、彼らの日本語能力にあわせ、通訳に依存しないように配慮しました。その結果、クローデル校生にたいへん好評であったばかりでなく、同校の受け入れ責任者であるステファン・ラマック氏も感心されるほど、充実した内容のプログラムが実現できたと感じています。今回の交換留学で私たちが学んだことのひとつに、本校の「フランス」に対するスタンスがあります。本校生の中には、もっとフランスを実感したい、という声があり、したがって、本校をよりフランス化することが必要だ、と考える方もありました。一見もつともなように映るのですが、これは交流という視点から見ると、フランス人のモチベーションを無視した考え方です。フランス人が本校に関心を抱くのはそれが日本だからであり、そこに日本人がいるからです。クローデル校生の「ここは日本だ。だから楽しい」という発言を聞いたとき、やっぱりなア、と思います。実際、本校の組んだプログラムはまさにそれが意識されたものになっており、3日目の土曜日に行われた新年会(地元感謝祭)では、茶道、着物

「生きる力」を 育てる。 プログラム。

中 自学自修 E-Study

創立者平生三郎の「すべての人は天才である」という建学の精神を継ぎ、甲南中学校・高等学校では、一人ひとりの天賦の才能を引き出し、真の学力を伸ばす教育を展開しています。それが、教科の学習にとどまらず、自らの興味あるテーマについて探究する、中学校の「自学自修」と高等学校の「E-Study」です。

中学校の「自学自修」では、土曜日の活用を学生自らに委ね、個々の興味・関心を掘り下げて、1年かけて1テーマを探究します。各教科の課題やテーマに取り組んだり、音楽や美術、小説などの創作活動に取り組むほか、ボランティアとして社会に奉仕する学生もいます。

さらに、こうした中学時代の「自学自修」をより発展させた学びが、高校2年生で取り組む「E-Study」です。「国際」「環境」「経営」「経済」「法」「社会問題」のカテゴリーからテーマを設定し、研究を進めていきます。文献やインターネットのデータからアプローチするだけでなく、フィールドワーク*で実際に調べるほか、レポートの作成とPower Pointを用いたプレゼンテーションを必須にし、社会で不可欠な情報発信力も習得していきます。

Theme 凶悪犯罪 —精神鑑定は必要か—



凶悪犯罪における精神鑑定のあり方に疑問を持ち研究。まずは精神病、司法における精神鑑定の始まりを調べ、甲南大学法学部の教授にインタビューもしました。大学で法律を学ぶ、新しい目標もできました。
甲南高等学校3年 野村 幸広君



「E-Study」発表会のプレゼンテーションの様子。

**Theme ジーンズにおける
ブランド戦略**



世界中の老若男女が愛するジーンズ。そのポケットを広告媒体に、企業から広告費をもらい、ジーンズを安く提供する新ビジネスを考えました。広告タグもつけて、実際に商標登録もしたんですよ。
甲南高等学校3年 濱田 凌佑君

**甲南高等学校
E-Study**

E-Studyの「E」は、Experience (体験) Exploration (探究) Exchange (交流) Expression (表現)。さまざまな経験から問題解決のプロセスを習得します。

**Theme インターネットと
中国の著作権問題**



音楽や映画など、インターネットでの違法ダウンロードが問題になる昨今。僕は中国の著作権問題に興味を持って研究。発表の時は、写真や図も豊富に使ってわかりやすく説明するよう心がけました。
甲南高等学校3年 牛丸 弘行君

Theme 石灰岩の研究



石灰岩はどうやって生まれ、どんなものに使われるのか? 実際に採掘現場にも足を運んで調査を実施。セメントなどの製品になるまでには、多くの人が関わっていることも知りました。
甲南中学校3年 白石 裕俊君



Theme からくりおもちゃづくり



江戸時代に庶民に愛された、仕掛けのある「からくりおもちゃ」を実際に製作。長さをきちんと測って木をカットするとか、細かい点まで気を配ることが、仕掛けをうまく出す秘訣です。
甲南中学校2年 鈴木 皓一郎君

吉沢 郁生先生の総括



教育研究部
吉沢 郁生先生

自学自修やE-Studyの授業では、「何故なんだろ?」と思う自らの疑問を大切にしてほしいですね。また、情報が氾濫している現代は、何が正しいかが見えにくい時代。フィールドワークをはじめ、テーマを掘り下げて自分なりの考えを導いた経験は、これからの生きる上で意義あるものになるはず。

**甲南中学校
自学自修**

HRの時間にテーマを決め、2学期に中間報告、学年末には調べた内容をレポートや作品にして提出。優秀な作品は表彰されます。

甲南 アカデミア

先生、
知の最前線を
教えてください。



中国の急激な経済発展が連日のように報道されていますが、
発展が続くのは中国ばかりではありません。
中国にブラジル、ロシア、インドなどを加えた BRICs、
さらにはポスト BRICs がどこになるのか、
いま企業の関心は移っています。
こうした加速する世界経済の潮流に、
日本は追いつかれるのか、追い越されるのか。
日本勝ち残りのための秘策を教えてくださいました。



Theme 3 アジア経営戦略

アジアのダイナミズムに 日本は 勝ち残れるか!?

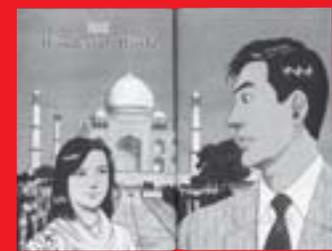


担当する講師
経営学部 安積 敏政 教授

Point 1
「常務島耕作」を読んで
現代インドを知る!



「タタ自動車」が、なんと30万円以下でクルマを売る」と発表しました。さらに同社は英国のジャガーやランドローバーを買収。自動車業界の世界トップ企業になろうとしています。



人気マンガ「常務島耕作」の舞台は今、世界の脚光を浴びているインド。韓国企業に先を越され、シェアを奪われているインドで、日本企業がいかに逆転するか？島耕作のアイデアと行動が光ります。



架空の家電メーカー「初芝電機」を舞台に、サラリーマンの島耕作が出世を遂げていく、弘兼憲史の人気マンガ。1983年に連載開始された「課長島耕作」を振り出しに「部長島耕作」「取締役島耕作」「常務島耕作」「専務島耕作」と出世。今年ついに社長にまで上り詰めたそうです。

「常務島耕作4」から ©弘兼憲史/講談社

日本はアジア発展の 蚊帳の外にいる!?

いまインド経済は、ちょうど10年前の中国と同じような状況にあります。今年はじめにはインドの造基地なのです。このほかシンガポールの金融技術や情報力もあなごれませんが、いま世界の銀行や企業群が拠点を築くのは、東京でなくシンガポールなのです。このように、現在の東南アジアは、ハード、ソフト、金融、情報と、実に多彩な分野で、急激な成長を続けているのです。

もちろんオリンピックと万博を控えた中国でも、恐ろしいほどの高度成長が続いています。中国全土に100社以上の自動車メーカーがひしめき合い、猛烈な勢いで生産台数を伸ばしています。日本のクルマメーカーが抜き去られるのは、もはや時間の問題でしょう。

こうしたアジアのダイナミズムは、いま非常に日本から見えにくくなっています。アジアの中心は上海とシンガポールにあり、日本はアジアの発展の、蚊帳の外に置かれているからです。

アジア成長はもう古い、 次は中東の時代が来る

21世紀のアジアの成長は、中国、ASEAN等の東南アジア、そしてインドという三角形を中心に進んでいます。けれども、いまから焦ってこの三角形に入ろうと思っても遅いのです。次に重要になるのは、インドの向こうにある中東。サブプライムローン（低所得者向け高金利住宅ローン）騒動を嫌った世界のマネーが、いま一斉に原油市場に流れ込んでいます。こうしたオイル・マネーを背景に、急成長を続けているのが中東なのです。

「タタ自動車」が、なんと30万円以下でクルマを売る」と発表しました。さらに同社は英国のジャガーやランドローバーを買収。自動車業界の世界トップ企業になろうとしています。

「一方マレーシアのボルネオ島では、半導体の生産が急激に成長しています。作業にあたるのは現地のイバシ族。技術は韓国から持ってきて、マレーシア資本が経営しています。いまマレーシアは世界の半導体の製造基地となったばかりか、世界最高の高さを誇るホテルや人工衛星からも見える巨大な人工島、世界最大級の空港が建設され、世界一スリーパスの高い観光地といわれています。21世紀の前半には、中国、インド、中東という三角形と、中国、インド、東南アジアという三角形、この二つが拮抗するでしょう。そのとき日本はどうするか、私たちは考える必要があるのです。

こうした世界の最先端の姿は、オフィスや教室にじっと座っていても見えてきません。実際に各都市へ足を運び、現地の企業や市場を確かめて、初めて見えてくるのです。たとえば中国の工場を訪問してみれば、日本のメーカーを早期退職した方々が、日本の高度なモノづくりのノウハウを継承しているのが、手に取るようにわかります。数年後には日本のメーカーを追い抜くだろうという予測が、実感としてわかるはずなのです。

一方で、中国やインド同様に注目を集めるロシアの地場の工場を訪ねてみると、資料調達から出荷までのラインが長く、あちこちに在庫が積み増しされている。モノづくりの体制が洗練されておらず、ライバルになるのはまだまだ先ということが、理屈でなく目で見てわかるのです。

もちろん訪問するだけではダメで、常に「次はどうなるか」を自分の頭で考え、先手を打つ必要がある

未来のことは 教科書には載っていない

私は、たとえば「10年後の兵庫県庁はどこにあるか?」といった正解のない質問を、講義で学生によく投げかけます。普通の学生は「10年後も神戸市にある」といいます。ですが優秀な学生は、「プラズマ産業が集積する尼崎に移るのでは」と予測し、もっと優れた学生は、「道州制で兵庫県庁はなくなる」と考えます。私が評価するのは、こうした柔軟な思考のできる学生です。

これをお読みの卒業生、在校生の皆さんも、是非自分の目で世界を歩き、自分の目で見て、自分の頭で考えてください。そうすることで初めて日本が勝ち残るための、新しい活路が開けるはずだからです。



Point 2
これが話題のインド製
28万円自動車だ!

これが約28万円のクルマ「ナノ」です。インドの大財閥「タタ・グループ」が経営する「タタ自動車」が開発したもので、2008年中に発売予定。エアコン、ラジオ、パワーウィンドーなどはなし。ワイパーも1本、ドアミラーも運転手側だけという徹底したコスト削減で、この価格を実現したそうです。

Point 3
現地のキーパーソンと
語り合うことが大事!



キーパーソンと直接会うのは重要なことです。一緒に写っているのはマレーシアのアジス・ラフィダ前・通産大臣。1987年以来、20年間にわたって通産大臣を務めた方です。

ASEAN、中国、インド、BRICsと来て、次の注目市場はどこになるのでしょうか。中東やアフリカも含む11カ国はネクスト・イレブン(N11)と呼ばれ、ポストBRICsの最有力候補とされています。けれども何より大事なのは、実際に目で現場を確かめること。自分の目と足で確かめてください。

安積先生 オススメ図書



入門者にぴったりなのは「インドの衝撃」。3回にわたって放送されたNHKスペシャルの同名番組をもとにしたもので、番組で紹介できなかったエピソードも盛り込んであります。ビジネス通には「インドビジネス実務ガイド」がお勧め。執筆陣はインドの専門家や研究者、企業の経営幹部など。インドビジネスの精髓を、具体的な実例を交えて詳細に解説し、実務に直結した知識が得られます。

インドの衝撃

NHKスペシャル取材班・著
文藝春秋・刊



▲
インドビジネス実務ガイド
～進出、事業拡大からリスク対応まで～
安積敏政(共著)、社団法人 企業研究会・刊

山岳部の未踏峰クビ・カンリの世界初登頂はすばらしい記録だと思います。甲南Todayの益々の活躍に乾杯!

(’67年卒・男)

2大先輩が同時に文化勲章受章という甲南はじめて以来の快挙にお喜び申し上げます。

(’48年卒・男)

フィットネステストの特集は、最近メタボリック気味の私にはとても興味深いものでした。

(’03年卒・男)

自分も現在法律家をめざしているので、ロースクールの記事は関心を持って読めました。今後もロースクールのお話を取り上げてください。

(’95年卒・男)

甲南大学の卒業生に、煎茶道の家元がおられることに驚きました。もっとたくさん卒業生のご活躍を見てみたいです。

(ご父母)

コラム「鳩杖」の終了がとても残念です。次回のコラムに期待しています。

(’70年卒・男)

卒業してから随分と日が経ちますが、甲南大学の現在を知ることができ、とても重宝しています。

(’98年卒・男)

表紙の水彩画を見ると、母校をもう一度訪れたい気分になれます。

(’57年卒・男)

学生時代に参加した摂津祭を、懐かしく思い出しました。

(’93年卒・女)

甲南大学の名物教授が、現在どうなっているかを特集してください。

(’98年卒・女)

卒業生や保護者むけに公開されている講座の紹介をしていただきたいと思ひます。

(ご父母)

娘が3回生になります。就職活動に参考になるような企画をお願いします。

(ご父母)

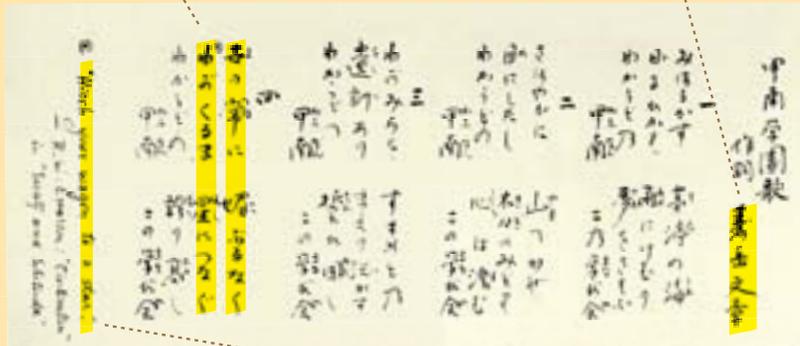
「甲南Today」をお読みになったご感想や、誌面づくりに関するご意見などを同封のアンケートハガキにて広報部までお寄せください。プレゼントもご用意しています(プレゼントについてはP.26をご覧ください)。

皆さまから寄せられた疑問を徹底調査!
こちら
甲南特捜部

学園歌

「理想の大学」にふさわしい学園歌を。わがくるま星になぐに託した想い。

甲南学園歌が生まれたのは、大学設立から2年後の1953年。作詞を手掛けたのは、当時英文学の教授だった寿岳文章氏です。寿岳氏は、甲南大学の前身となった旧制甲南高校で英語を教えるなど、兼ねてより甲南学園との関わりが深く、教授就任にあたって「甲南を理想の大学にした」という熱意を持ち、新しい大学のスタートにふさわしい学園歌をつくらうと考えました。作詞の際、寿岳氏の念頭にあったのは、甲南学園の設立者である平生飢三郎の教え「わが道をすすむ」。この建学の精神を込めたのが、甲友の皆さまにお馴染みの、世の常に媚ぶるなくわがくるま星になぐの歌詞です。



「わがくるま星になぐ」という言葉は、アメリカの著名な詩人で哲学者でもあったマンソンの言葉「Hitch your wagon to a star」に由来します。日本語に訳すと、「高い志を持って」という意味。日々の勉強や仕事を確固たる信念や高い理想になぐことで、意義を見出し、意欲を持って取り組んでほしい。そんな想いを、寿岳氏はこの歌詞に託したのです。

作曲は、戦前のヒット曲「海行かば」などの作曲家として有名な信時潔氏。荘重な歌詞とメロディーは、50余年の時を経て今なお学生、卒業生に愛され続けています。

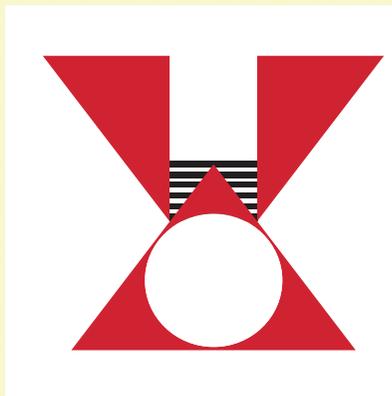
「学園歌にあるわがくるま星になぐってどういう意味?」「甲南のマークには、どんな意味があるの?」そんな疑問に、今回われわれ特捜部は、学園歌とロゴマークの謎に迫りました。



甲南の学園歌とロゴの由来は何?

ロゴ

時を経てもお新しい、甲南学園のロゴマーク。



甲南学園のロゴマークは、1979年の甲南学園創立60周年を記念し、神戸出身で世界的アーティストの菅井汲画伯によってデザインされました。

このマークは、実は旧制甲南高校の校章であった「かぶ」とのモチーフを受け継いだもの。菅井画伯の手によってデザインされたロゴマークは、伝統を由緒正しく表現しながらも、これからの新しい大学にふさわしい現代的な息吹を感じさせ、制作から30年近くたった今も甲南学園の象徴として輝き続けています。



甲南高等学校(旧制)校門徽章

菅井汲 画伯 (1919-1996)
1952年に渡仏後、パリに長年在住し、国際的な活動を繰り広げた抽象画家。サンパウロビナーレ展の最優秀外国人作家賞をはじめ、数々の国際展への出品・受賞を果たした。

そして今、現役生たちは…



5年ぶりに1部に昇格したRED GANG。

相手は、奇しくも5年前2部に降格した時の入れ替え戦と同じ因縁の相手。2007年の12月に行われた、甲南対龍谷の1部入れ替え戦。約3000人の観衆が見守るなか、20対14で甲南大学が第4クォーターに劇的な逆転勝ち。悲願の1部昇格を手にした。

そのとき主将を務めた'08年卒江川さんは、「とにかく『1戦1勝』をモットーにやってきました。『1部昇格』という目標をチーム全員が共有し、全員がその目標に向かえた結果」と、試合までを振り返る。榎垣さんも「当日は、厳しく指導して下さったOBの方々が応援に駆けつけてくださり、勝利の祝福を受けたことがなによりうれしい」と喜びを噛みしめた。

ハードな練習のなかで培われた甲南アメフト部の伝統である、一人ひとりのモチベーションの高さも勝因のひとつだろう。宮本さんは「やらされるのではなく、自主的にやっていく雰囲気づくりを大切にしたい」と振り返り、大崎さんは「自分が率先して練習し、背中の後輩を引っ張っていった」と語る。

今後のチームを担う橋田さんと塚本さんは「1部リーグで僕たちの力がどれだけ通用するか、思いっきりぶつかっていきたい」と意気込む。すでに新しいシーズンに向けて、RED GANGは進撃を始めている。



1部昇格を記念し、有志が作成。

取材にご協力いただいた方

卒業生：奥野裕彦さん('60年卒)、上畑安廣さん('61年卒)、浦谷朗さん('64年卒)、前田忠彦さん('64年卒)、梶貞士さん('66年卒)、嘉納秀一さん('71年卒)、大岡修平さん('80年卒)、古市朗さん('80年卒)、坂本光謙さん('80年卒)、張田忠雄さん('83年卒)、堀田高章さん('91年卒)、団正幸さん('91年卒)、内海陽平さん('91年卒)、坂野利彦さん('91年卒)、吉川茂樹さん('92年卒)、石野牧生さん('96年卒)、江川怜さん('08年卒) 現役生：橋田恒彰さん(済4)、宮本純治さん(営4)、榎垣雅則さん(済4)、大崎祐紀さん(営4)、塚本隆広さん(理3)

甲南クラブステップ

アメリカンフットボール部



関西有数の伝統は、世代を超えた力に支えられて。

創部当初のハンデに負けず、関西で2位に急進。

関西でも有数の伝統を誇る、甲南大学アメリカンフットボール部は、'55年にアメリカンフットボール同好会として発足。チームはまだ同好会でしたが、関西フットボール連盟から公式に認められており、発足後1年目の'56年には、初の公式戦に出場。関学、関大、京大、同志社、立命館、そして甲南の関西6大学リーグの時代でした。'60年卒の奥野さんはその頃を振り返り「やるからには日本一になれと、荒勝安策初代学長に発破をかけられました。部員11人、交代選手すらいません。技術面も確立していなかったため、合宿は関大と合同でしてました。初のリーグ戦は、0勝5敗。その後甲南アメフト部の歴史は、忘れえぬ人物が現れる。コーチとして招かれた、関西学院大学OBの古川さんと長手さん。この二

人がいなければ、今の甲南アメフト部は存在しません。体の鍛え方から戦術はもちろん、練習後に自宅までお伺いして、人生観まで教えてもらった恩人です」と、'61年卒の上畑さん。創部してまだ間もない時代もあり、人・モノ・金すべてが足りない時代の苦労がありました。特に、アメフト部の場合、一番の課題は防具の調達。日本にアメフト文化が根づいていない時代、防具は日本製がなく進駐軍の払い下げを買っていました。'58年に部に昇格後、'64年卒の浦谷さんは、予算の獲得に手腕を発揮したひとり。「ドル11360円時代に、アメリカ製の防具を買うのは大変なこと、しかも、ノーズギア1本がようやくついた簡易なものでした。'64年卒の前田さんは「大学グラウンドをいくつもの運動部が使っていましたので、野球部や陸上部などは、毎日グラウンドの争奪戦。他の部と仲良くケンカしながら練習をしていました。グラウンド横の

阪神・淡路大震災時も部の活動を支えた。合宿先もOBの方々から交渉、地震で物資も不足するなかスポーツに専心できたのは、OB会や後援会のおかげでした」と、'96年卒の石野さん。だからこそ、紆余曲折を経て、'07年12月の試合で再び1部リーグに返り咲いたことを喜んだのは、グラウンドにいた現役部員だけではない。'92年卒の吉川さんも「自分自身も在学時に入れ替え戦を経験したので、自分のことのように嬉し涙でした」と。スタンドに駆けつけたOBをはじめ、「チームのために」と力を捧げたみんなで勝ち取った総合力の勝利だったのです。

不遇の時も、常にチームにあった「支える力」。



1955年創部時。わずか9名からのスタートだった。

馬術部の馬が逃げ出すハプニングもありました。だが、こうしたハンデにも負けず、古川・長手両氏の熱意あふれる指導のもと、急激に実力をつけ、創部6年目にして関西リーグ2位を飾ることになる。1960年、1963年の間、関西リーグで2位を堅守。いつも合言葉は「打倒関学」の時代だった。

創部10年を迎える頃から、部員数の減少に悩まされる。原因のひとつは、「根性練習」だった。「朝10時から夜7時まで、1日の半分以上がアメフト漬け。まず入って3日、3カ月、そして夏の合宿で多くの部員が消えていきました。'66年卒の梶さん。'71年卒の嘉納さんも同じ境遇を味わう。「入学時には20数名いた同期生が、卒業する時にはわずか5名でした。いかにハードな練習だったか。人数が足らず、マネージャーがユニフォームを着た試合もあります。'71年のリーグ戦2位を境に徐々に低迷し、'78年甲南史上初の2部降格。不遇の時を8年間味わう。'80年卒の古市さんと坂本さんはその頃を思い出す。関西のリーグは、群雄割拠の時代でした。2部でさえ、かつて1部リーグにいたチームばかりです。一方で、近代フットボールを提唱するチームの躍進も目立った。'80年卒で、現在チームの監督を務める大岡さんは「うちの部でも、対戦チームの試合ビデオを撮影して戦力分析を始めたのが、この時期です。で

も、やっぱり精神論・根性論の世界でした。そんな時代に「自分の力で1部に昇格させてやろう」と意気盛んに入部したのが、'83年卒の張田さん。「入れ替え戦にも行けない、次のステップへ進むための暗中模索の時代でしたね」。トネルの先によりやく光が見え始めたのは、'80年代後半。その契機は、'86年の1部昇格。折しも、時期は、関西アメフト全盛期。'91年卒の同期である堀田さん、団さん、内海さん、坂野さんは、その真っ直中の時期を過ごした。「僕らの時代は、京大が日本一を制覇したことで、関西でアメフトに一躍注目が集まった時代。だから、100人を超える部員がいました。99人を超えて、背番号がもらえなかった選手もいました」。さらに、'90年元NFLのヘッドコーチであったジョン・マコヴィック氏の来学

が、アメフト部に新たな風を吹かせた。10日間にわたる指導は、本場アメリカで実践されたフットボール理論を誰もか聞き逃すまいと必死だった。氏から教わったメソッドは、その後の甲南アメフト部の礎となり、現在もチームに受け継がれている。こうしたマコヴィック氏の招聘をはじめ、これまでの歴史を振り返ると、50年以上にわたりこの部が連綿と続いてこれたのは、OB会をはじめとする周りからの支援の賜物に他ならない。とりわけ、'87年に創立された後援会は、甲南大学ではアメフト部だけの援助組織。アメリカンフットボールは、前述したとおり防具にはじまり、栄養士やドクター、トレーナーといったスタッフ体制までハード・ソフトの両面における総合力や、他のスポーツと比べて多くの資金力が不可欠だからです。その支援が95年

の阪神・淡路大震災時も部の活動を支えた。合宿先もOBの方々から交渉、地震で物資も不足するなかスポーツに専心できたのは、OB会や後援会のおかげでした」と、'96年卒の石野さん。だからこそ、紆余曲折を経て、'07年12月の試合で再び1部リーグに返り咲いたことを喜んだのは、グラウンドにいた現役部員だけではない。'92年卒の吉川さんも「自分自身も在学時に入れ替え戦を経験したので、自分のことのように嬉し涙でした」と。スタンドに駆けつけたOBをはじめ、「チームのために」と力を捧げたみんなで勝ち取った総合力の勝利だったのです。



1960年、創部6年目にして関西で2位の座を獲得。

クラブの歴史

- 1955年 ● 関西の6番目のチームとして10月創部
- 1956年 ● 11月関西学生フットボール連盟に登録
- 1957年 ● 5月5日学習院大学と定期戦開始
- 1958年 ● 関西学生リーグ初出場
- 1959年 ● 関西リーグ6チーム制になる
- 1960年 ● 6月同好会として学内で承認
- 1961年 ● 安西冬衛先生により部歌作詞
- 1962年 ● 7月体育会アメリカンフットボール部に昇格
- 1963年 ● 卒業生4名により部旗作成・寄贈
- 1964年 ● 2部リーグが「近畿学生リーグ」に改名。
- 1965年 ● 入替戦が始まる。
- 1966年 ● 愛称「レッドギャング」命名
- 1967年 ● 20周年記念大会実施(甲南グラウンド)
- 1968年 ● 2部降格
- 1969年 ● 30周年記念大会実施(宝塚ホテル)
- 1970年 ● 1部昇格
- 1971年 ● 六甲アイランド施設誕生
- 1972年 ● 後援会発足
- 1973年 ● イヤーブック創刊
- 1974年 ● 元NFLヘッドコーチイリノイ大学体育局長兼フットボール部ヘッドコーチジョン・マコヴィック氏来日指導
- 1975年 ● スポット推薦1期生入学
- 1976年 ● イリノイ大学コーチ
- 1977年 ● デニー・マーミン氏来日指導
- 1978年 ● 1部昇格
- 1979年 ● イリノイ大学コーチデニー・マーミン氏再来日指導
- 1980年 ● マーミン氏再来日指導
- 1981年 ● 神戸ベイシエンラトンで合宿開始
- 1982年 ● 40周年記念パーティー(新阪急ホテル)
- 1983年 ● 40年史発刊
- 1984年 ● 2部降格
- 1985年 ● 1部昇格
- 1986年 ● ESPNコメンテーター
- 1987年 ● ジョン・マコヴィック氏来日指導
- 1988年 ● コカコーラCM出演
- 1989年 ● 2部降格
- 1990年 ● 創部50周年記念パーティー
- 1991年 ● (神戸ベイシエンラトン)
- 1992年 ● 50年史発刊
- 1993年 ● W杯全米ヘッドコーチ
- 1994年 ● ジョン・マコヴィック氏来日指導
- 1995年 ● 1部昇格



悩み続けた
学生時代の私を
おおらかに包んでくれた
甲南大学。

第一線で活躍する卒業生に、
ご自身の生き方についておうかがいするこのコーナー。
今回は、代表作『神様のパズル』が
映画公開間近の作家・機本伸司さんに
インタビューします。

[SF作家]

機本 伸司氏

KIMOTO SHINJI

1979年甲南大学理学部応用物理学科卒業



宇宙創造がテーマのSF小説。

1979年甲南大学理学部(現理工学部) 応用物理学科を卒業。出版社勤務、映像製作会社、フリーランスのPR映画ディレクターを経て、2002年『神様のパズル』で第3回小松左京賞を受賞。以後、執筆に専念する。これまで『メシアの処方箋』(2004年)、『僕たちの終末』(2005年)、『スペースプロローブ』(2007年)の著書がある。『僕たちの終末』の文庫版が5月中旬、新刊『神様のパズル』の番外編が6月末に発刊の予定。2008年『神様のパズル』が、三池崇史監督で映画化。6月7日、全国東映系映画館で公開予定。

代表作『神様のパズル』が
映画化されて公開に。

6月に映画化されて公開される私の代表作『神様のパズル』は、宇宙そのものを大学生が創り出すという、奇想天外なSF小説。映画の仕上がりも素晴らしく「宇宙はなぜあるのか、自分はなんのために宇宙に存在するのか」という作品のテーマを、きちんと尊重して演出されています。宇宙や自分の存在を問うのは、甲南理学部在学中に感じた疑問が出发点で、私の一貫したテーマ。学生時代に感じた疑問を、小説で問いつづけているようなものです。

で、あまりに自由な学生生活をもてあましてしまった。その結果、自分とは何かという疑問に悩むことになったのです。

一時は悩みがちな私に、クラッシュ寸前まで行きましたが、最後は「いつか作家になって、自分の疑問に答えを出そう」という気持ちになりました。これは甲南の包容力とおおらかな雰囲気の中で青春を過ごせたから。もし一人で東京の大学に進学などしていたら、自分の疑問に潰されていたかもしれせん。

『神様のパズル』は、4年生のときのゼミがモチーフになっているんですよ。主人公はまさに私自身です。他の登場人物にもちょっと似た部分で私の姿を投影していたり、あらゆる場面で甲南大学の生活や経験をちりばめています。

喫茶店「ブル」などは、実際に大学のすぐそばにあった店です。甲南の卒業生が読んでくださったら、「あれ？甲南のこと？」って気づいてくださるんじゃないでしょうか。「松屋」のカツ丼もおいしかったです。久しぶりにキャンパスを訪れると、雰囲気は自分が学生時代のままなのに、懐かしいお店がなくなっていたり、学生たちの服装などが様変わりしていたり、映画「バック・トゥ・ザ・フューチャー」の登場人物になった気分です、楽しいですね。

大事なのは4年間で自分の夢を見定めること。

卒業後は出版社を経て映像製作会社に入りましたが、作家になりたいという夢を捨てず、40歳を過ぎてデビューしました。夢を叶えた卒業生として、



『神様のパズル』は、映画プロデューサー角川春樹氏によって映画化。
<http://www.kami-puzzle.com/>

こうした場所で紹介して下さるのは、とても嬉しいことだと思います。けれども、同時に私のような生き方は、誰にでも勧められるものではないな、とも思います。まわりに迷惑をかけながら夢を達成した訳ですから、また、大学を出たからといって作家になれるわけではない。デビューは作家にとって単にスタート。デビューしてもプロから脱落する作家はいくらでもありますし、ヒット作を飛ばすのも至難の業です。

夢のカタチはさまざまで、作家とかミュージシャンとかいった、人気職種ばかりが夢ではない。むしろ学生時代で大切なのは、4年間かけて自分とは何かを考え、自分の夢を見定めることにあるのではないかと思います。そのためにも、時に悩むこともあるかと思いますが、あまり悩みすぎないで、私みたいな者もいたんだと思いついてください(笑)。

幸い甲南には個性を尊重する校風や穏やかな環境があり、最近では学生の悩みに応える学生相談室の活動も充実しているそうですね。また、卒業生をこうして応援してくださる優しさも甲南にはある。在校生、卒業生の皆さんも、どうかご自身の夢の実現に向かつて、今後とも前進を続けてください。

山本 弘一氏

陸上(オリンピック選手)

昭和24年 甲南高等学校(第24回)理科卒。

戦時中の尋常科から中距離選手。復活第1回のインターハイ団体全国優勝に貢献、昭和22年秋季国体兵庫県代表で800m個人優勝。京都大進学後の同27年ヘルシンキオリンピックで千600mリレーに出場。62歳で没。

甲南卒初のオリンピック選手は昭和11年ベルリン大会に身長2m弱体重百kgの巨漢・松野栄一郎氏(旧文9)がハンマー投げに出場している。

伊藤 英吉氏

テニス(デビスカップ選手)

昭和6年 甲南高等学校(第6回)文科卒。

昭和5年、高校3年で2回目の全日本選手権出場、全日本学生選手権は単ベスト4、インターハイ関西ゾーンは弟・順吉氏(旧理8)らと団体優勝。全日本ジュニア選手権は単ベスト4、楠本忠次氏(旧文7)と組んだ複は優勝。昭和8年、神戸商大時代にデ杯選手。

伊藤兄弟、楠本氏、片岡幸三郎氏(同17)ら優秀選手を育てたのは、後にデ杯監督になった四本須恵男氏(旧中2回)。

甲南学園の

歴史と文化

をつくった人々

学園のモットーは徳育・体育・知育。体育を含めたのは「丈夫な身体でなければ、学習は続けられない」と平生先生が考えたからと言われています。「スポーツは仲間との協調と、ルールを尊重する精神が養われる」が先生の一貫の「ねらい」であり、「願い」だったようです。その思い通り、旧制甲南高校生はほとんどが運動部活動に加わり、設立2年目に早くも全国高等学校陸上競技大会に初出場、初優勝(400mリレー)して一躍注目され、以後、インターハイ等で陸上のほか、ラグビー、テニス、バスケットボール、射撃、スケートが団体、個人合わせて計19回全国制覇し、野球も準優勝しています。その中から、後に日本を代表する優秀な選手・監督に育った人々を紹介します。

藤田 省三氏

野球(プロ野球近鉄監督)

大正15年 甲南中学校(第3回)卒。

学園創立翌年に野球部を創部した人。全国中等学校野球(甲子園)兵庫予選で注目された捕手。法政専門〜大学に進み、法大監督で関根氏、根本氏らを育て共に、プロ球団「近鉄」発足時に入団、初代監督に。

後、赤ヘル軍団と言われた時の「広島」のコーチ陣の陰のコーチや、法大入学時不振だった江川投手を立ち直らせた《教え上手》は有名。78歳で没。

高橋 勇作氏

ラグビー(全日本選手)

昭和18年9月 甲南高等学校(第19回)文科卒。

英国の先進学校をモデルにした平生先生が、力を入れたラグビーで名選手が育った。尋常科からバックス、フォワード全てでパスよし、蹴って良しのオールラウンドプレイヤー。昭和17年インターハイで全国優勝に貢献、東大進学後4年連続関東代表に。同27年戦後初のオックスフォード大招待試合で全日本の主将。この試合のポスターのモデルにも。62歳で没。

平生先生の三男・三郎氏(旧文4)も有名ラグー。

今回も、浜田邦夫さん(甲南高等学校昭和28年、甲南大学経済学部昭和32年卒)の協力を得ました

明石市教育委員会との連携協力を促す協定を締結

4月7日(月)、甲南大学と明石市教育委員会は、明石市立学校等との連携教育に関する包括協定を締結しました。高阪薫甲南大学長と森田尚敏明石市教育委員会教育長が協定書に署名し、今後の連携教育についての協力体制を確認しました。

協定の概要は、①本大学と明石市立学校等の相互の人的・知的資源の交流・活用を図り、相互に有意義と認められる諸事業を行うことにより、相互の教育の充実・発展に資することを目的として、②本大学教員・学生等による明石市立学校教育活動への協力、体験学習活動、教職員相互の交流・研修等の事業を行います。



高阪薫甲南大学長(写真右) 森田尚敏明石市教育委員会教育長(写真左)

58年卒業生が、卒業50周年を記念して植樹を実施

3月29日(土)、平生銅像前庭園にて、58年3月卒業生の有志による、卒業

本山西地域福祉センターへAED(自動体外式除細動器)を寄贈

2月27日(水)、甲南大学自治会中央委員会の学生より本山西地域福祉センター(神戸市東灘区)へ、AED(自動体外式除細動器)の寄贈式が行われました。このAEDは、昨年11月に開催された摂津祭(大学祭)にいられた方々からの寄付金と、甲南大学自治会中央委員会からの出資金を合わせて購入したものです。

AEDは、甲南大学近隣住民の集会

経営学部・西村ゼミがネスレジャパンとコラボレーション

2008年3月29日(土)、本学において、経営学部西村ゼミの新4年生が、ネスレジャパン(株)に対して共同研究の成果報告を行いました。昨年6月にネスレジャパン(株)マーケティング統括本部長の石橋氏からのレクチャーを受けた後、9月から共同研究が始まり、昨年12月には中間報告、アドバイスをいただいた後、3月29日に共同研究の最終報告会が実施されました。



最優秀賞チーム・キットカットケーキ班

50周年を記念しての記念植樹(記念樹「花水木」)が行われました。この記念植樹には、吉沢理事長、片岡副理事長、杉村学長ら学園関係者も出席しました。その後、図書館など学内施設を見学するなど、久しぶりの再会に、懐かしい一日を過ごされていました。



甲南大学と県立明石高校が高大連携の協定を締結

3月26日(水)、甲南大学先端生命工学研究所と兵庫県立明石高等学校は、高大連携の協定を締結しました。

この協定は、県立明石高校生命科学探求類型が掲げる3つの教育の柱(生命科学・倫理・社会)に、甲南大学先端生命工学研究所(FIBER)の持つ実験を中心とした理系教育のノウハウを組み合わせて、生命科学の未来を担う優れた人材の育成をめざすものです。

今後は、独立行政法人科学技術振興機構「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト」講座型学習活動(講座名:生命科学)を通じて「学びの接続」の支援の下、最先端の設備や研究成果を活用した実験講義の実施、レポート作成法の指導によるプレゼンテーション能力・コミュニケーション

場所である本山西地域福祉センターに設置し、緊急時に地域住民の大切な命を迅速に救うことができるようにとの願いが込められています。



当日は、石橋本部長のほか、竹内カテゴリマネージャー、そしてキットカットチームのメンバーが出席し、ネスレのコミュニケーション戦略とキットカットの製品拡張に関する5つの研究報告と質疑応答、さらにはディスプレイが持たれました。最優秀賞には製品拡張戦略の一環としてキットカットのケーキを提案したチームが選ばれました。ネスレジャパン(株)からは、「中間報告・最終報告を通じての提案には製品化への問題点は幾つかあるが、大変参考になった。またコミュニケーション戦略展開においても有益なアイデアをもらえ、そのうちの何点かは、実現したい」というコメントを頂戴しました。



ケースン能力の育成、キャリア教育の実施等を、両校が共同で実施します。



明石高校折戸善信校長(左) 甲南大学先端生命工学研究所川上純司准教授(右)

杉村学長が公認会計士試験合格者を祝福

2007年12月、2007年度公認会計士試験に合格した島村浩之さん(会計大学院1年次)を、杉村学長が学長室へお招きし、懇談いたしました。

学長は、島村さんの会計士試験合格に対し、「おめでとう。よく頑張ってください」とお祝いの言葉を述べるとともに、今後、会計士になるための研修を控えていることについて、「世界に通用する公認会計士に成長されることを期待しています」と激励いたしました。



父母の会・同窓会課外活動表彰、および学生部長特別表彰の各授賞式を開催

2月23日(土)、文化、スポーツ、ボランティア活動などですぐれた業績を挙げた学生や学内団体に贈る、父母の会・課外活動表彰(金甲賞)、同窓会課外活動表彰(会長賞・奨励賞)、学生部長特別表彰の授賞式が行われ、吉田昇生父母の会会長、水野正人同窓会会長、前田忠弘学生部長より、賞状と助成金が贈られました。受賞団体および個人は次のとおりです。

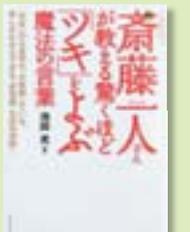


- 金甲賞受賞**
 - 団体 体育会弓道部、体育会漕艇部、体育会アーチェリー部
 - 個人 井上敬文さん(理工学部3年・ボートセーリング部)、若林愛さん(法学部4年・陸上競技部)
- 同窓会課外活動表彰受賞**
 - **【会長賞】** 谷勇輝さん(理工学部4年・山岳部)、後藤木志さん(経営学部3年・ゴルフ部)、野島祥さん(法学部4年・馬術部)
 - **【奨励賞】** 団体 文化会書道部甲墨会
 - 個人 屋敷尚子さん(法学部3年・弓道部)、柴田悠貴さん(経済学部4年)
- 学生部長特別表彰受賞団体**
 - 体育会 準硬式野球部、ホッケー部、ライフル射撃部、釣クラブ、剣道部、チアリーディング部、少林寺拳法部、柔道部
 - 文化会 茶華道料理部道心会、文化会児童福祉研究会、文化会演劇部

甲南大学の教員と卒業生が執筆した 新刊レビュー



メディアの万華鏡
ケータイからブロードバンド、ユビキタスまで、その実像を探る
塩路忠彦 著
[1968年理学部卒、1968年甲南大学大学院修了] 神戸新聞総合出版センター ¥1,365(税込)



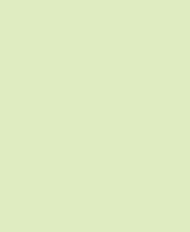
斎藤一人さんが教える驚くほど「ツキ」をよぶ魔法の言葉
池田光 著
[1975年甲南高等学校卒、1979年文学部卒] イースト・プレス ¥1,365(税込)



古代宮廷儀礼と歌謡
藤原享和 著
[1995年甲南大学大学院修了] おうふう ¥12,600(税込)



心理療法と超越性 神話的時間と宗教性をめぐって
横山博 編
[文学部教授] 人文書院 ¥2,625(税込)



暴力の発生と連鎖
上村くにこ 編
[文学部教授] 人文書院 ¥2,625(税込)



ドイツ自由主義経済学の生誕 一レバケと第三の道一
藤本建夫 著
[経済学部教授] ミネルヴァ書房 ¥8,400(税込)



特別活動のフロンティア
中谷彰・白井栄治[教職教育センター教授]・大津尚志 編
晃洋書房 ¥1,575(税込)



アクティブ中国
胡金定[国際言語文化センター教授]・荊兼月・衛裕群・鄭萍・陳傑中 著
朝日出版社 ¥2,310(税込)



葉っぱのふしぎ
緑色に秘められたしくみと働き
田中修 著[理工学部教授]
ソフトバンククリエイティブ ¥1,000(税込)



現役裁判官・書記官による出張講義

2月21日(木)、甲南高校において、神戸地方裁判所から現役の裁判官と書記官をお招きし、出張授業を行いました。今回、授業を受けた生徒は、裁判員制度が始まる翌年には成人し、裁判員に選ばれる可能性もあることから、神戸地裁に要請し実現したものです。

授業では、現役の裁判官から裁判所の役割、裁判の仕組み、司法の果たす役割等について興味深い話を聞くことができ、生徒たちにとって非常に貴重な経験となりました。甲南高校では、これまでも甲南大学法学部との高大連携教育により、本学教授から講義を受けたり、同学部学生とともに模擬裁判への参加や、実際の裁判所を見学する等、種々の活動を行っており、法学教育への意識付けだけでなく、広く市民として司法に参加するための理解を深めるよう努めています。

甘利斉久さんが三十三間堂大の全国大会で優勝

1月13日(日)、京都・三十三間堂で開催された、「三十三間堂大の全国大会」成人の部において、甘利斉久さん(経済学部2年)が優勝しました。本大会は例年、全国から男女2千数百人の成人が晴れ着姿で参加する弓道の行事で、「通し矢」という成人の日に行われる、有名な京の風物詩です。(写真中央が甘利斉久さん)



メディアに取り上げられた甲南

弓道部が「よるこ部」毎日放送「よるこ部」(毎週火曜23時55分)に登場!

本学弓道部の活動が、毎日放送の新番組「よるこ部」で数回にわたって放送されることになりました。

「よるこ部」は、学生時代に部活動の経験がなく、何かに夢中で真剣になったことのないお笑い芸人よるこさんが、最初にクラブ活動に取り組んで、青春を取り戻すべく立ち上げた番組です。

そのよるこさんが体験入部する記念すべき最初のクラブに、甲南大学弓道部が選ばれました。

「弓道なんて簡単だー」と豪語するよるこの濱口さん。しかしながら、実際に弓を撃つとまったく飛ばない濱口さんに、甲南大学の弓道部生が基本の型「射法八節」を指導するなど、真剣に弓道に取り組んでいきます。バラエティ番組でありながら、真摯に弓道に取り組むよるこさんと、彼等をバックアップする甲南大学弓道部員たちの真剣な姿勢をお送りするもので、甲南大学生の素晴らしい姿勢がご覧いただけます。ぜひご覧ください。

※甲南大学弓道部が登壇する放送日・時間予定
5月6日・6月3日の23時55分
「よるこ部」ホームページ
www.mbs.jp/yokokobu/

●今後の予定●

2008年度卒業生の方々へ 甲南高等学校同窓会のご案内

くもく一度ふり返ろう高校時代

【日時】5月31日(土) 受付は午後12時

【場所】甲南高等学校

【会費】2000円(大学生、院生は無料)

【内容】

12時 同窓会受付開始

於：講堂

13時 総会

ブラスアンサンブル部員の演奏会 ジャパン・スチールドラント! ジャズフュージョン・ジャズダンス

於：講堂

14時10分 講演会 吉崎和幸氏(13回卒)

「徳育・体育・知育にさらされた難病への挑戦」日本から発信する世界初の治療法

於：講堂



吉崎和幸氏
大阪大学名誉教授
大阪大学先端科学イノベーションセンター教授

15時10分 模擬授業

※本館より開始・遅刻早退は認めません。於：当館にて案内

濱口博章先生(古文)、南里章二先生(社会)、石川康則先生(音楽)、山内守明教頭先生(甲南中学入試相談コーナー)

ご希望の方は講堂受付にてお申し込みください。

16時20分 懇親会 ビアパーティ

於：食堂

※母校敷地内は全面禁煙となっております。
※交通はJR芦屋駅北側⑥番乗り場および、阪急芦屋川北側⑥番乗り場にて阪急バスをチャーター致しておりますので、ご利用ください。

EVENTS SCHEDULE

5月

●前期社会人講習会「言語講座」(10日～7月12日)

●甲南キャンパス(3日～6日)

●春期公開講座(17日～6月21日)

●大学教育懇談会

●父母の会総会(17日)

●文化勲章受章記念講演会(24日)

●オール甲南の集い(25日)

●現代講座(31日)

6月

●文化会ラレッシュマンハイキング(初旬)

●体育会ラレッシュマンキャンプ(初旬)

●前期授業終了(15日)

●前期試験(16日～30日)

●夏期公開講座「パソコン教室」(26・27日)

●夏期社会人講座(26日)

●夏期休業(31日～9月18日)

8月

●夏の文化会行事(初旬)

●大学オープンキャンパス(3・24日)

9月

●前期末卒業証書・学位記授与式(18日)

●後期授業開始(19日)

●後期社会人講習会「言語講座」(27日～12月6日)

キャリアセンタースケジュール

4年次未内定者 対象

フォローアップセミナー

●5/7(水)～9(金)
[時間]13時～14時10分
※3日間とも同じ内容です

合同企業セミナー

●5/7(水)～9(金)
[時間]14時20分～17時30分
※参加企業は毎日変わります

3年次 対象

第1回就職ガイダンス

●4/22(火)～28(月)
就活の壺(自己分析)

●5/12(月)

●キャリアアップローチ(適性検査)

●5/28(水)～29(木)

●コミュニケーション力をアップする

●6/12(木)～16(月)

●キャリアアップローチフォロー講座

●6/26(木)～27(金)

●女子学生合宿セミナー

●8/5(火)～6(水)

●第2回就職ガイダンス

●9/24(水)～30(火)

1・2年次 対象

●ハレ晴れセミナー(キャリアアップ編)

●5/19(月)～23(金)

●[時間]全日14時50分～16時
スマイリーセミナー(1年次対象)

※各回先着15名!

●明るい声の出し方、好感を持たれる立ち方、座り方、歩き方、電話のかけ方、受け方など基本的なマナーを実技を通して身につけましょう。和菓子の食べ方も学びます。是非ご参加ください。

自己発見の職業レディネス・テスト

●5/14(水)～5/26(土)
[時間]16時30分～18時

皆さんの興味の方向が一体どんな仕事と結びつくのか、どんな仕事なら、自信をもってやれるのか、など「職業と自分」について考えていくためのもの。今からほんのちよと将来を意識するだけで、明確な大学生活の送り方が見えてくるはず。テストと言っても、学力検査ではなく、簡単な設問に答えるだけです。お気軽に参加してください。(両日とも同じ内容)

ハレ晴れセミナー(資格取得編)

●5/28(水)

●[時間]16時30分～18時
金融業界(銀行・証券・保険)入門セミナー

●6/4(水)

●[時間]16時30分～18時
専門家(国家資格・本音トーク)資格とその魅力に迫る!

●6/5(木)

●[時間]16時30分～17時30分
貿易セミナー「貿易の仕事を知ろう」

●6/12(木)

●[時間]12時20分～12時50分
旅行業界セミナー

●6/12(木)

●[時間]16時30分～18時
税理士☆ステップアップセミナー

●6/16(月)

●[時間]16時30分～18時
会計士☆ステップアップセミナー

●6/17(火)

●[時間]16時30分～18時
法律系仕事・資格就職総合ガイダンス

●10/22(水)

●[時間]16時30分～18時
会計士・税理士☆合格体験談セミナー

●11/25(火)

●[時間]16時30分～18時
会計士・税理士☆実務家講演会

卒業生に負けない、自分の生き方を見つけよう。

フィールドワーク公開講座

「京都くるわ文化と九鬼周造」

九鬼周造の粋の構造を学び、名料亭ちもとで茶屋遊びを体験する

【日 程】10月25日～11月8日

毎週土曜日(全3回)

10時30分～14時30分

(90分講義2講座)

プログラム

■第1回/10月25日(土)

・京都の文化史を学ぶ

・九鬼周造ってどんな人

■第2回/11月1日(土)

・京都くるわ文化を学ぶ

・九鬼周造哲学 日本の粋を学ぶ

■第3回/11月8日(土)

・フィールドワーク

300年の伝統を誇る名料亭ちもとで

茶屋遊びを体験する

潤田貞子(ちもと姉おかみ)

松井明太(ちもと代表取締役)

芸者2名・舞子1名

なりもの1名(予定)

【場 所】甲南大学・京都料亭ちもと

【受講料】12000円(ちもと昼食含む)

【対象者】一般社会人

【募集定員】60名

【問い合わせ先】甲南学園広報部 TEL(直通) 078-1435-1231-4

当選者発表

「甲南Today No.29」プレゼント(ソラーラ時計)にご応募いただき、ありがとうございました。328名の多数のご応募のなかから厳正なる抽選の結果、5名の方が当選されました。

- 浮島真美さん('03卒)
- 長田久仁子さん('77卒)
- 檜尾浩一郎さん('84卒)
- 松下大輔さん('99卒)
- 谷晃行さん('05卒)

アンケートPRESENT

甲南大学オリジナルラガールカード

(スルッとKANSAI対応)

甲南大学オリジナルラガールカード(スルッとKANSAI対応)を5名様にプレゼントいたします。ご希望の方は、同封のアンケートハガキにてお申し込みください。

応募締切 6月20日到着分まで



次号は2008年9月発行予定

甲南Today NO.30

発行日/2008年5月1日
発行/甲南学園広報部
〒658-8501 神戸市東灘区岡本8丁目9-1
TEL (078) 431-4341(代)
印刷/大日本印刷株式会社